

令和5年度第4回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和6年2月13日（火）10：00～11：30
場所	恵庭市民会館 大会議室
出席者	小磯 修二（北海道文教大学 地域創造研究センター長） 高岡 哲子（北海道文教大学 副学長 医療保健科学部看護学科教授） 安藤 隆善（北洋銀行 恵庭中央支店長） 岡部 利夫（北海道銀行 恵庭支店長） 山崎 真理子（北海道新聞社 千歳支局長） 長太 裕一（連合北海道恵庭地区連合 会長） 業天 章裕（千歳公共職業安定所 所長） 矢野 敦子（北海道石狩振興局 地域創生部長） 中村 敦史（中央コンピューターサービス株式会社 地域デザイン事業部 CX推進課長）
報告	（1）国立社会保障・人口問題研究所の人口推計の概要
議事	（1）第3期恵庭市総合戦略（案）について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
市長 あいさつ	●市長 委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、この懇談会だけではなく、市政に様々なご指導をいただいていることに感謝を申し上げます。 12月20日に北海道文教大学地域創造研究センターと共催で、「ラピダス株式会社の立地と恵庭創生」という、ラピダス社が恵庭のまちづくりにどのように影響するのかを考えるフォーラムを行っております。 冒頭にラピダス社の清水専務に基調講演をしていただき、「北海道と共に歩む次世代プロジェクト in 恵庭」ということで、お話をさせていただきました。それを受けて、会長に進行いただき、パネルディスカッションを行いました。そのときに清水専務からは、ラピダス社としては大きな湖、池に石を投げ込んで、その波紋、そしてその影響を、それぞれがどのように受け止めるのかというお話をされました。それに対して、恵庭として何ができるのかを考えていきたいと思っております。その中で、どういった

	<p>影響があるかということについては、まだ不透明なところはありますが、対応できるような準備をしなければならないということをお話させていただきました。</p> <p>令和6年度の予算がまとまりました。表題を「まちの可能性に挑戦する令和6年度予算」というネーミングにさせていただきました。今のラピダス社もそうですが、隣の北広島では350万人を超える方が道内外から来られている、また、恵庭市の中でも外国人の方々が急増している、そういった変化がたくさん出てきている、その変化に対応して恵庭らしいまちづくりをしていく、その挑戦の年だということを、令和6年度予算に名付けさせていただきました。</p> <p>令和6年度予算をはじめ、後年度の予算の裏付けとなるのが、今ご審議いただいている、第3期総合戦略になります。皆様から貴重なご意見をいただきながら作り上げてまいりました。いよいよ終盤となりますが、さらに今日一日ご審議いただいて、まとめていきたいと思っておりますので、様々なご意見を賜りますよう、心からお願いを申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
確認	<p>●企画振興部次長</p> <p>欠席者及び委員の交代について説明・配布資料の確認</p>
報告	<p>●事務局</p> <p>議題</p> <p>「(1) 国立社会保障・人口問題研究所の人口推計の概要 (2) 第3期恵庭市総合戦略(案)について」 説明</p> <p>●会長</p> <p>本日は最後の懇談会ということで、前回までに皆様からいただいたご意見を踏まえ、最終的にこういう形で進めていきたいというご説明でした。本日はこの内容だけではなく、これを基に今後どのような方向で恵庭の都市政策をすすめたら良いか、それも含めてご意見をいただきたいと思えます。</p>
意見交換	<p>●A委員</p> <p>懇談会で意見したことが盛り込まれて、大変良いものができていると思っています。</p> <p>話が変わりますが、男女共同参画の審議会も出させていただいているのですが、恵庭市として、もっと力を入れていただけたらと思っています。具体的に言うと、ジェンダーギャップ指数が、日本は125位とかなり低くなっています。その原因は政治の参画と、経済参画の指数が低いということです。私は公教育に携わっているため、遠回りでも、主権者教育をし</p>

意見交換	<p>ていくしかないと思っています。</p> <p>経済参画に関しては、もっと恵庭市の方から企業に働きかけて、男女同一労働同一賃金ができているかなど、目標を定めていくしかないと思います。私たち教職員は、女性の比率も高いのですが、それは他の業種だとなかなか男女平等に働けないという裏返しではないかと思います。教職員は割と男女平等な職場環境が整っている方だと思うので、それをもっと広げていっていただくことが必要ではないかと感じておりますので、総合戦略に関わらないかもしれませんが、お願いしたいと思っています。</p> <p>●会長</p> <p>共生社会、多様性はとても大事なことだと思います。貴重なご意見だと思います。</p>
	<p>●B委員</p> <p>これまでの意見などもかなり反映されて、素晴らしいものが出来上がってきていると思います。</p> <p>今日の話の中にもありました、外国人の関係なのですが、資料2の10ページの資料を見ますと、令和5年の765人という数字が、令和5年6月に673人と一気に増えています。やはりコロナが5類になってからでしょうか、おそらく12月末か、その辺の時点かと思いますが、半年ぐらいで100人近く増えており、今後このような流れは増えてくるのかなと感じております。</p> <p>北海道文教大学は、道内私立の大学では、札幌大学に次いで2番目に留学生が多い大学です。短期留学の方も多かったようですので、その留学生がそのまま恵庭で就職するとは限らないですが、外国人などの多様な方々が働ける、住みやすいまちを目指している、というところが、非常に反映されていると思います。色々な事業で、さらに推進してくのかなと思いますので、こういったところも視点にされているところが、素晴らしいと感じています。引き続き色々な事業を推進いただければと思います。</p>
	<p>●C委員</p> <p>冒頭に市長からもありました、「ラピダス」や「北広島」のキーワードについて、両方がかなり活発な地域の中で、恵庭市としてどのように今後、実行していくのかということが、この総合戦略なのだろうという視点で見えていました。</p> <p>自治体は民間企業に例えると、中に会社がたくさんあるような状況なので、その中でどうやって表現するかは、とても難しいと思いますが、現時点でどのような部分に力を入れているのかという部分を、改めて市長にお</p>

意見交換	<p>聞きしたいと思いました。</p> <p>デジタルの観点では、昨今、DXの話が多いと思います。資料の中でも、行政デジタル化というポイントが書かれており、ここに「書かない窓口」というキーワードが出ているのですが、それ以外にどのようなデジタルを目指すのかということは、一つキーワードになると思っています。暮らしやすい地域というところで、行政からの鮮度の高い情報がすぐ届くというところでは、今回、公式LINEを導入して、かなり改善されていくだろうと思っています。行政サービスの中でも、効率化を図りたいところは給付金などがあると思いますが、検討する余地があると思います。</p> <p>地域資源に「スポーツによるまちづくりの可能性調査」がプラスされている部分で、これは北海道の中で色々な地域が関わっていますが、特にニセコエリアの方は、スポーツを通じて地域に関係人口や交流人口をつくる取組を活発にされていると思います。一過性のイベントを継続することは難しいと思いますが、継続して実行していくことがすごく重要だと思うので、どのようなことを検討されていくのかということをお聞きしたいです。</p>
	<p>●D委員</p> <p>私の専門は老年看護学なので、18ページの「健康・長寿の推進」というところを、特に関心を持って見ていました。</p> <p>今、地域フィールド実習に行っているのですが、憩の家は、高齢者の居場所事業が、かなり充実しているという印象を持っています。自宅でお風呂に入って、お風呂を洗って乾かしてということではなく、憩の家でお風呂に入って、そのまま帰るといった、自分のニーズに合った憩の家の使い方をしているということを確認しています。もっと色々な方たちが、憩の家を利用できるようになれば良いと思っており、資料に書かれていることには賛成です。</p> <p>また、学生たちは、介護にではなく、医療費にお金がかかっているという情報を得てきました。予防の意味で病院にたくさん行くので、医療費がかかっているのではないかとということを学生たちが調べているのですが、そのようなデータをもとに、もう少し健康のことを考えて、学生たちが貢献できること、提案できることがあったらいいと思っています。</p> <p>学生たちがとても興味を持っているのは、除排雪についてです。除排雪は健康にも関わり、うまくいっていないことで、高齢者の転倒や、交通事故にも繋がるのではないかと意見も出ていたので、除排雪がもう少しうまくいくと、資料に記載のあるスポーツや、高齢者が外に出るなど、そういうところがうまくいくと思いました。</p>

意見交換

ラピダスだけではなく、周辺に研究所が色々できているようで、かなりの人数が動くことを予測しています。千歳に住む知人が言っていたのですが、恵庭は庭が綺麗で、憧れのまちのようです。千歳に住むよりも、少し通勤に時間がかかっても、恵庭に住む人が多くなるかもしれないということをお話したので、私は、もう少し人口が安定するのではないかとこの予測をしました。花を綺麗にしたり、そういう皆さんがやってくれていたことが、実を結ぶ可能性が高いと思っています。

本学の留学生についてですが、次年度は、資料に記載のあるところ以外だと、モンゴルの方が入って来られる予定です。大学としてもサポートしていますが、市では、高齢者の方のゴミ出しや除雪を手伝うことで、市営住宅を安価で貸してくれるなどの協力を得ています。今後も留学生が入ってくる予定なので、市の方にもご協力いただきながら進めていきたいと思っています。

●E委員

前回お話のあった内容が詳細に盛り込まれているようで、とても良い形で進んでいると思います。

先ほどのお話にもありましたが、10ページの国籍の部分について、私たちのお客様とお話の中で、労働力人口が少なくなっており、ラピダス関係の仕事の受注を受けたいが、受けられないということをお聞きしました。外国人技能実習生が貴重になってくるかと思いますが、5年ごとに就労資格更新試験を受ける必要があり、そこに日本語の試験が入ってくるようで、更新の壁が大きく、5年後に帰国し、日本に戻ってくる方もいるようですが、同じ会社には勤められないということがあられるようです。例えば、更新試験に対しての補助や、サポートできる体制があれば、労働力人口をカバーできるのではないかと、仮に帰国して日本に戻ってきたときも、住みよいまちを掲げて取り組んでいることが生きてくると思うので、また戻ってきたいと思えるような取組を継続いただければ、経済も回るのではないかと考えています。

●F委員

不動産について、最近の調査結果をお話させていただきます。色々な見方があると思いますが、恵庭市内の賃貸共同住宅の入居率が、1年前は88～89%だったところ、直近では95%ぐらいになっているそうです。共同住宅の入居者の入れ替えのタイミングで、家賃を3,000円、5,000円上げても埋まるような話もあります。前は市街化区域の拡大の中で、住みよい区画割や用途地域という話をさせていただきましたが、ラピダスの関係もあり、ここにきて急ピッチに入居者や、恵庭に住みたい方が増え

意見交換	<p>てきていると感じております。ファミリー用で3LDK9万円ぐらいの家賃のところがすぐに埋まったとか、そういう話も聞いております。その中で、市街化区域の拡大については、どうしても時間がかかる部分もあると思います。建築用地をどう確保していくのかというところを、私も1年このまちにいますが、なかなか市内を回っていても、都合がいい土地がないと思っています。</p> <p>その中で、空き家に対するアプローチをどのようにしていくかという話が重要だと思います。所有者にしてみれば、特定空き家になるというのはデメリットですので、それを防ぐために、市として空き家を1件ずつ当たっていくのが難しいのであれば、例えば民間と共同で何かできないか、または空き家に対し、どこが空き家なのかという識別など、今回の計画を進めていく上では、必要になってくると思っております。私たち民間の立場でお手伝いできることがあれば、ぜひお手伝いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
	<p>●G委員</p> <p>総合戦略の案を見させていただいて、非常にきめ細やかで、目配り気配りしていて、とても良いと思いました。1年間、創生懇談会に参加させていただいて、改めて、恵庭は本当に色々な意味で条件が良いというか、地の利が本当に良い、恵まれた地域だと勉強させていただきました。</p> <p>先ほど、「スポーツによるまちづくりの可能性調査」という部分で、隣にエスコンができたので、利用しない手はないと思います。まだ1年経っていませんが、年間350万人が入ってきていて、スポーツ観戦する人を観光客に入れるかはさておき、年間の集客で考えたときに、北海道で一番の集客を持っている観光地になっていると思います。皆さんも体験されていると思いますが、エスコンに札幌方面から行く場合は非常に混んでいて、行きも帰りも大変なことになるのですが、千歳・恵庭方面から行く場合は、行きも帰りも楽に帰って来られるので、そういった、恵庭側からのアクセスが非常に良いというところを、何とかうまく活用していくと、宿泊施設の問題は出てくるかもしれませんが、観光に結び付くと思います。</p> <p>非常に細かいのですが、29ページの真ん中の「観光戦略・方向性」で、「SNSを活用しガーデニングや食など「おしゃれ」「質の高い」イメージで訪れる女性客」は、20～30代とありますが、今後定住してくれる人を狙って20～30代も良いと思いますが、おしゃれとか、質の高さでいうと、年齢層はもう少し上になると思います。30～40代、50代ぐらいまで含めても、実際に外で大きなお金を出せる年代はもう少し上だと思うので、そちらもあわせて検討いただければと思います。</p>

意見交換

●副会長

創生懇談会で皆さんが出された意見を、事務局でまとめていただいて、すごく良いものができあがっていると思います。

先の話になると思いますが、概要版を作られるときに、頭に置いていただきたいことがあります。できれば概要版はわかりやすく、例えば移住のターゲットとする子育て世代のお母さんや、小中高生が、自分のまちはこんなところという、総合戦略を見る前の入口として、概要版がわかりやすくなっていると、こちらを勉強しようかな、という気持ちになったり、外向きにも宣伝しやすいと思うので、ぜひお願いします。

●市長

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。

まず、男女共同の観点というお話をいただきました。大変重要なことだと思っておりますので、15ページに追加し、経済面で企業努力をいただく、または市も努力したいということ、これまでもやってきておりますので、そういった観点も考えていきたいと思っております。

また、B委員からお話がありましたが、外国人がこれから増加することが予想されます。15ページの「①多世代交流・多文化共生の推進」の、やさしい日本語、困りごと相談ということももちろん大切ですが、外国人がたくさん来ますので、それに対応できることを考えていきたいと思っております。今は市と、ボランティアの方々にとっても頑張ってもらっていて、色々なイベントをやっていただいたり、相談業務を受けてもらったりしていますが、その体制も今後考えていく必要があると思っております。

C委員からお話がありました、力を入れている部分については多岐に渡り、何を重点にして、何を重点にしないのかということ、なかなか言えないことではありますが、間違いなく言えるのは、まちをめぐる環境が相当変化しているということ、変化してくるだろうということ、それをただ漫然と見過ごすということにはならない、ということです。例えばラピダスや、エスコンや、そういった変化を捉えて、どう恵庭らしさを表すか。先ほどのお話にありましたが、恵庭を「憧れ」と言ってもらえて、本当に嬉しい限りですが、住んでみたいとか、そういったことを大切にしながら、損なうことなく、そういった方々を受け入れる、その準備を進めなければならないと思っております。そうしたことの文言も、この総合戦略に、新たなまちづくり、市街化区域の編入についても検討するということが書いてありますので、そのようなことを使いながら、考えていきたいと思っております。

また、デジタル化について、給付作業はデジタル庁からも言われており

意見交換

ますので、今の段階ではできませんが、特に子育て世代などをターゲットにして、始めていくことになるのではと思っています。今の給付事業は、低所得者向けの給付事業なので、そうなりとお年寄りの方が多いということもありまして、アナログで当面やっておりますが、総合戦略にも書いてありますが、例えば役所に行かなくても申請ができるということ、これからも取り組んでいきたいと思っております。自宅で申請して、それが全て終了できるかどうかわかりませんが、少しずつ増やしていきたいと思っております。令和6年度からは、婚姻届、転居、転入転出などを、まずは書かない窓口でやっていこうと思っています。

スポーツによるまちづくりについてご意見をいただきましたが、スポーツはやはり魅力ある、そして人が集まる、エスコンは350万人も集まるものですから、それを私たちのまちでも活かさないか、スポーツを活かして、人が注目してもらえ、またはそれを通して恵庭に住んでもらう、そういったことができないかという、可能性を総合戦略の中で考えていこうというものです。

D委員からお話をいただいた、高齢者の方々の色々な調査結果について、特に高齢者の生活、高齢者の健康は一つの大きなテーマであると思っておりますので、しっかり考えていきたいと思っております。

E委員からお話のありました、外国人の方が5年更新後、勤めるかどうか、いずれにしても、日本語が上達していくことが、次の特定技能にも繋がります、そうすると家族も呼べることとなりますので、外国人の方々の生活も、また、まちとしても厚みを増してくると思っておりますので、そういったところを検討といいますか、まずはこの項目をやっていききたいと思います。

F委員からお話がありましたが、本当にまちなかに家を建てる場所もない状態です。市営住宅についても、新しく建てるのではなく、賃貸で空いているところがあれば借り上げて、市営住宅として使うということも考えていまして、そもそも賃貸に空きがないというお話ですので、難しいのかもしれませんが検討を始めています。

G委員から、エスコンについて、隣町にあって、活かさない手はないというお話がありました。何が出来るか、それをしっかりまちづくりのなかで考えていこうということで、スポーツによるまちづくりの可能性調査とさせていただきます。

また、概要版について、色々ご意見をいただきながら、いいものにしたと思っています。

全体的に、色々な変化があつて、新しいまちづくりに取り組まなければならないということはもちろんありますが、やはり恵庭の文化の資源であ

意見交換	<p>る、読書、住みよさ、地域的条件の良さといったものを活かし、他のまちにないそういった面を主張しながら、発信しながら、まちづくりを進めていく、その一つの指針ということで、第3期総合戦略を考えていきたいと思っております。皆さまからご意見をいただいたことを活かしながら、取り入れるところについては変更しますので、そうしながら考えていきたいと思っております。</p>
	<p>●会長</p> <p>私は、昨年4月から北海道文教大学の中にある、地域創造研究センターという、新しい政策研究の活動をする機関のお手伝いをさせていただいています。色々な取り組みをこれから進めていく中で、文化創造都市の恵庭の取り組みについて提言させていただいております。具体的な中身はこれからになりますが、一言で言うと「文化」とは狭い意味での「芸術文化」ではなく、足元にある地域の資源を再発見、再認識し、そういうものの価値をつけて、これからの都市政策を進めていってはどうかということです。その背景には国の政策の中で、特にここ10年ぐらいで一番大きな変化の一つだと思うのですが、文化の再認識というのがあると思います。これまで文化というのは、伝統文化を守るという、それは政策の手段だったのですが、インバウンドの動きなど色々あると思うのですが、観光資源としても、色々な形で文化と言っても、幅広く資源として見直しながら、国づくりを進めていこうという、その中で地域資源の再認識という視点での「文化」という切り口で、これからの恵庭のまちづくりを進めていくのはどうだろうかという取り組みです。</p> <p>その中で、千歳のラピダス、北広島のエスコンフィールドという動きがある中で、改めてその取り組みの意味を考えていきますと、ラピダスやエスコンフィールドというのは、非常に大きな、外発的な、外からの投資という動きです。その中で、外発的な取り組みだけに、地域の持続的な開発、活性化だけではなく、そこに内発的な動きを組み合わせることが、これは北海道にとっても大事な取り組みになっていくのではないかと思います。恵庭の役割は、北海道にあるもの、恵庭にあるもの、その足元にある資源というものを再認識させ、そこに魅力をつけてその外発的な動きを、いい意味で高めていくというような役割だと思っております。</p> <p>先ほど市長からご紹介いただいたように、昨年の暮れに、私どもの地域創造研究センターの主催でラピダスフォーラムを開催させていただいて、ラピダス社の清水専務も参加いただいて議論しました。ラピダス社の小池社長は北海道バレー構想を考えられていますが、それは、アメリカのシリコンバレーのような単に大きな新しい先端企業が来るというだけではな</p>

意見交換

く、それにある地域の活性化を、ラピダス側は求めていると思います。

北海道におけるシリコンバレーの意味は何かということ、フォーラムのときに市長とお話をさせていただいたのですが、アメリカでシリコンバレーがなぜ成功したのか、秘訣は何なのかは、実は解明されていないようです。シリコンバレーには、スタンフォード大学という、世界の最先端の大学がありますが、なぜそこにあるかということ、工業団地があるからではなく、シリコンバレーの居心地の良さだと思っています。そこで世界中の人材が集まってきて、新しい先端企業がどんどん立地していく。

地域がラピダスの先端的な動きを受け止めるためには、居心地の良い地域づくりを持続的に行うことが必要だと思います。それを担えるのは北海道でどこなのかと、もちろん札幌の役割もあるし、色々な地域の役割があると思いますが、この恵庭がこれまで培ってきた花のまちであり、ガーデンシティであり、住みやすい都市政策というものは、そこに活かしていける部分が十分あると思います。それをどういう形で今後、戦略的に仕掛けていくかは、難しいとは思いますが、そういった取り組みをこれ以降進めてほしいという、そのような思いも込めて、文化創造都市という提言をさせていただきました。

個別に見ていくと、外国人をどう受け止めていくのかという、政策的なことや、一番大きいのは住宅について、そういうところを含めた住みやすさだろうと思います。都市政策を進めていくと、都市計画の保留地などの大きな壁にぶつかります。例えば熊本は、県の主導で集落内開発制度という独自の地方自治体の権限で住宅用地を増やしていく取り組みを、長く進めてきており、そのような動きが北海道になかなか見えてこないという、それに対して我々がどういうメッセージを出していくのか、大変難しいところではありますが、その方向の議論に結びつけていくようなところを、取り組んでいく必要があるのではないかと思います。

もう一点、ご報告しておきたいのですが、恵庭の地方創生に向けた取り組みの中で、地域そのものをしっかり分析する力、分析力を高めていこうということが大きなテーマでした。今年度、私どもの地域創造研究センターで、地域産業連関表の市町村レベルの作成のお手伝いしました。作業がほぼ完成しまして、今月の27日に報告会をする予定です。実証実験として恵庭市を選定して、産業連関表を作成しましたが、これは恵庭のためだけではなく、北海道内の市町村でも、自分たちで連関表を作成できることを目指しています。地域産業連関表というのは、地域における産業構造、経済構造を分析する、非常にわかりやすいツール、物差しです。これは北海道開発局の協力を得ながら取り組んできましたが、恵庭初の取り組み

意見交換	<p>を、今後北海道や全国向けに発信していければと思っています。</p> <p>恵庭の産業連関表を作成し、結果を見て、恵庭の産業構造の特徴として一つ出てきたのは自給率です。恵庭でどれだけ経済活動が自給できているのかというところですが、正直に言えば低いです。これは、札幌の中核都市圏の経済圏の一部ということで、やむを得ない部分がありますが、気になるのが、これからの時代は外から稼ぐという、その意識もしっかり持つことが大事です。隣町で350万人が訪れましたが、これは、ただ人が来たから都市が発展するわけではなく、人がもたらす消費なんですね。その経済消費を高めることは、地域の経済として、これから恵庭の長期的な発展を考えていけば、非常に大事なテーマだと思います。ここで新しく観光消費の調査を組み込んでいただきましたが、これは北海道だけではなく、日本でこれから何で稼いでいくかという、観光消費、インバウンド消費というのが、半導体を抜いて自動車産業に次ぐ産業になっていて、これからの地域戦略にとって、外から地域にやってくる人の消費に着目した戦略を、どういう形で恵庭として取り組んでいくのか、改めて大事なことだと思います。</p> <p>恵庭は工業団地も多く、色々な企業がありますが、恵庭の域内収支、つまり地域の貿易収支を産業連関表で見ると、実はそんなに大きく稼いでいません。恵庭の工業団地の中に色々な企業が立地していますが、産業生産を、地域活動、地域の中の経済とうまく結びつけていくような戦略がこれから大事だと思っています。どういう企業に立地してもらうのか、その企業は立地した以上、恵庭の地域経済にどのように結びつけていくのか、産業戦略もこれからも必要なことになってくるのではないかと考えています。そのようなところが、新しい産業連関表から読み取れるので、これから議論を引き続き進めていきたいと思っています。</p> <p>皆様方には引き続きこれからの恵庭の今後の総合戦略の推進という面でもご助力いただくことになるとと思いますが、引き続きよろしくお願ひします。</p> <p>●市長</p> <p>第3期総合戦略がほぼまとまりました。このあと議会にも報告し、意見をいただき、それで成案となります。</p> <p>また、今日いただいたご意見も整理させていただいて、付け加えるところは付け加え、修正したいと思います。</p> <p>本当に長い4回に渡り、ご出席いただきましたことに感謝して、私からの話とさせていただきます。本当にありがとうございました。</p>
閉会	●企画振興部次長 閉会のあいさつ